



大磯町郷土資料館 11月3日 リニューアルオープン



リニューアル後の常設展示

大磯町郷土資料館は改修工事を終え、平成28年11月3日（木・祝日）にリニューアルオープンします。

相模灘の青い海と高麗山・鷹取山をはじめとする緑の丘陵は、太古の昔から豊かな恵みを約束し、さまざまな文化を大磯の地に育んできました。郷土資料館では、こうした大磯と周辺地域を含む豊かな風土の拡がりを「湘南の丘陵と海」というテーマとしてとらえ、昭和63年10月の開館以来、活動を進めてきました。オープンから28年間の活動の中、常設展の小規模な展示替えは継続的に行ってきましたが、大型展示物などの更新がないことから、展示が変わっていないという印象があり、開館後10年が経った頃から展示リニューアルが必要との声が聞かれていました。

このたび、平成27年度から28年度の2か年をかけて工事を行い、エントランスホール、展示ホール、廻廊、常設展示室の展示を一新しました。新しい常設展示は、28年間の博物館活動の成果を活かすとともに、特に「別荘地大磯」にかかわる近代史、現代史に重点を置いた展示を展開します。

リニューアルをした常設展示をぜひ、ご覧ください。

〔展示の見どころ〕

エントランスホール

かつて城山の地にあった城山荘の趣を再現

三井家総領家である北家は、明治30年代から現在の県立大磯城山公園旧三井別邸地区に別荘を構えました。10代当主の三井高棟は、関東大震災の教訓を踏まえ、ドイツで耐震建築を研究してきた建築家の久米権九郎に設計を依頼して、外観はイギリスのチューダー様式、内装には古社寺の古材を用いた城山荘本館を、昭和9（1934）年に完成させました。場所は現在の県立大磯城山公園の展望台付近です。以後、様々な建物が敷地内に建てられ、整備が進められました。城山荘は別名を古材館とも呼ばれ、全国各地の社寺から寄贈された古材を活用して作られた点が特徴です。

新たな常設展では、エントランスホールに城山荘本館の広間吹抜上部を再現しました。展示している古材は、唐破風（樺材）及び龍の彫刻の欄間（檜材）は奈良県の龍門寺、龍の彫刻の束は三重県に存在した高宮寺、鶴の彫刻の欄間（檜材）は奈良県の長岳寺で使われたものでした。



▲かつての城山荘本館
広間吹抜上部
(写真集城山荘より)



▲再現展示の工事作業の様子

また、失われていますが、柱の上の軒などを支える斗拱は大磯町の王福寺で使われたものでした。

今回の改修工事では城山荘の解体を行った、京都の安井杢工務店に保管されていた古材を寄贈いただき、欠損していた部材復元を行って展示が作成できました。

リニューアルオープン記念企画展 「遺跡からみる近代別荘地の形成と展開」

リニューアルオープン記念企画展では、考古学資料からみた別荘地にかかわる内容を取り上げます。

神奈川県内には、近代の遺跡の興味深い調査事例がいくつ也存在します。神奈川県各地の遺跡の発掘調査等により得られた近代の資料をもとに、外国人居留地の設置と居留地から派生した鉄道の敷設、及び延線と鉄道の延線に伴う人の移動、更に別荘地の形成をたどります。また、特徴的な近代の遺物についても併せて紹介します。

●会 期 平成28年11月3日（木・祝日）

（12月18日（日））

●休館日 毎週月曜日、館内整理日

（12月1日）

●会 場 郷土資料館企画展示室

●関連行事

展示解説 11月13日（日）、12月11日（日）

※ 関連行事等の詳細は、11月号でお知らせします。